

2022年6月発行

CWS JAPAN NEWSLETTER NO. 69

いつもCWS Japanの活動に温かいご支援、
ご理解をいただき、ありがとうございます

フィリピン・台風ライ 被災者支援の現場から

2021年12月にフィリピン中部を襲った台風ライ(日本名:台風22号)は、「スーパー台風」と呼ばれるカテゴリー5となり甚大な被害をもたらしました。CWS Japanは現地パートナー団体のCDP (Centre for Disaster Preparedness)と共に、特に支援が届きにくいレイテ島南部で支援活動を実施しています。2022年5月中旬にCWS職員の五十嵐豪が現地を訪問しました。被災地での支援状況と、未だ被災の影響が残る被災者の声を報告いたします。

現地パートナー団体を通じて、現地行政や他の支援団体と調整の上、レイテ島南部の支援対象地域を選定しました。訪問中に、CWSの取り組みの一つである住宅再建支援として現金給付を実施しました。台風ライは多くの住宅に深刻な被害をもたらし、猛烈な強風により屋根が吹き飛ばされ、高潮により腰より上まで海水が浸水し、さらに押し流された家もありました。しかし、修繕に必要な資材は世帯により異なることが多く、画一的な資材の提供よりも、世帯ごとに異なるニーズに併せて必要な資材を購入できる現金による給付は効果的な支援の方法だと言われています。また、業者による不当な価格設定や、輸送費の負担を避けるために、現地の業者と事前に十分に協議し、適切な価格で住民が必要な資材を購入できるように合意を交わしました。

**\ご協力お願いします/
アフガニスタン
東部地震の緊急支援を
開始しました**

現地時間6月22日1時30分、
マグニチュード6.1の地震
が発生し、1,000人以上が死
亡し、多くの負傷者が出て
います。

詳細を知る▶ [こちら](#)



写真

支援活動の一つ、現金給付時の様子

"現金給付の際は、その用途についての合意書の内容を十分に説明し、住民と署名を交わします。その署名には、現地行政官が証人として加わります。こうして支援資金の透明性と説明責任を担保できるように努めています。"

また、支援を受け取った住民も現金を住宅再建に使用する旨の合意書に署名し、支援金の透明性と説明責任を担保しています。



写真

2022年5月上旬に実施された大統領選挙に伴い、公的な支援が遅れています。半年近くたっても、住宅再建が進まず、友人・知人宅に身を寄せる人や、非常に簡易的な小屋しか建てられず生活している人もいます。

支援を受け取った多くの住民から感謝の言葉が伝えられました。一方で、今回の台風について「想定外だった」、「こんなに大きな台風になるとは思っていなかった」という声も多く聞きました。台風に慣れている地域だからこそ、油断した部分もあるという意見も挙がりました。

しかし、2013年に同じレイテ島の北部を襲ったスーパー台風ハイエンを思い出し、早めに避難した住民や、他の住民に早めの避難を促す人も多くいたようです。

フィリピンと日本は、同じアジア太平洋地域に位置しているだけでなく、台風や地震、火山など共通の自然災害リスクを有しています。そのため、お互いの被災経験や防災対策から学ぶことも多くあると感じました。今回訪問したレイテ島南部の各自治体では、災害マップや対応計画などがあったのですが、地域住民まで広く周知されているとは言えず、台風上陸前後の対応に遅れが見られました。

今後は行政が持っているこうした情報を、住民が自分ごととして意識を高めるような防災力強化支援が必要だと言えます。こうしたフィリピンの取り組みは、日本の市区町村における住民周知の取り組みや課題に活かせる部分があるのではないかと期待しています。

(文：プログラム・マネージャー五十嵐 豪)

静岡県静岡東高等学校でSDGSに関する出前授業を実施しました

2022年6月17日に静岡県静岡市の静岡東高等学校にて、SDGsをテーマに、それぞれの立場から出来ることについて考えてもらうきっかけとして、活動の紹介やSDGsの達成に向けた世界の取り組みやそれを取り巻く環境についてお話しさせていただきました。

CWS Japanからは職員の五十嵐豪と西澤紫乃がスピーカーとして参加し、高校二年生の男女合計38名の生徒の皆さんにお話をすることができました。当日は五十嵐からCWS Japanの団体紹介を始め、関連するSDGsゴール13,14,15の内容に触れたり、国際社会のSDGs目標の達成度合いについて説明しました。



写真

西澤がCWS Japanによる
緊急人道支援について発表している様子

西澤からは、ジャパン・プラットフォームの資金援助を受けて実施した二つの事業「インドネシア / サイクロン・セロージャ被災者緊急支援」と「パキスタン / 害虫被害対策支援」をもとに、CWS Japanが大事にしている視点、持続的な被災コミュニティとの関わり方、防災支援の重要性について話しました。

45分間というとても短い時間の中で、伝えたいメッセージを届けることは難しかったですが、久しぶりの対面形式で生徒の皆さんの一人一人の顔を見ながら発表ができた時間や、他のNGOの皆さんと交流出来た時間はとても貴重でした。

今後も多くの方の当会の活動への理解やご支援が得られるよう、またよりよい支援の輪が広がるにこのような機会を作っていきたいと思えます。

(文：プログラム・オフィサー 西澤 紫乃)

ADRRNが新戦略を発表しました

CWS Japanも理事を務め、アジアの防災・減災関係者が集うAsian Disaster Reduction and Response Network (ADRRN)が2022年5月末に2030年に向けた新戦略を発表しました。

ADRRNは西はイランから東は日本まで、アジア地域17か国の市民社会組織から成り立つネットワークで、「安全なコミュニティ環境と災害に強い社会」というビジョンを掲げて2001年に設立されました。「2030年までにアジアを最も回復力のある地域に変革する」ことをビジョンとして掲げて活動しています。

"防災・減災では日本は政策・仕組み・技術・知見において大きな貢献が出来る
と信じています。"

2030年までの新戦略では、真に災害に強い社会となるため、以下の戦略目標を掲げています：

- ①アジアを代表する防災・減災のプラットフォームであり続け、より多くのNGOや地域の市民社会組織を巻き込んだアウトリーチ活動を強化する。
- ②各国及び地方レベルでのグローバルな枠組み（仙台防災枠組・SDGs・パリ合意など）の効果的な実施を促進し、早期対応、災害リスクガバナンス、気候適応とレジリエンスの能力、アカウンタビリティを強化する。
- ③科学的な知見と現場での実践を結びつけ、防災・減災力強化に関する地域の知識や実践の幅を広げる。

防災・減災では日本は政策・仕組み・技術・知見において大きな貢献が出来ると信じています。そのカタリストとなれるよう、引き続き防災・減災のサイエンスを各国の現場に伝え続け、自発的な防災・減災力強化を更に促す事が出来るよう、尽力して参ります。

(文：事務局長 小美野剛)

インターン紹介

皆さんはじめまして、楠 真依(くすのき まい)です。2022年5月よりCWS Japanでインターンをしています。現在は早稲田大学社会科学部2年生に在籍しており、秋から始まるゼミでは途上国の教育支援について学ぶ予定です。



写真

インターン生の楠真依さん

私は父の仕事の関係でブラジルに10年、グアテマラに3年暮らしていました。ブラジルのインターナショナルスクールに通っていた際に授業の一環でスラム街や児童施設にボランティアに行く機会があり、これをきっかけに人道支援に興味を持ちました。また、大学ではベトナムの教育支援を行うボランティアサークルに入っています。残念ながら、未だコロナ禍でベトナムに渡航が出来ていません。

そのサークルの仲間とCWS Japanと一緒に新宿区大久保地区における多文化共生防災プロジェクトに参加させて頂き、そこからCWS Japanの活動に興味を持ちインターンに応募しました。

主にCWS Japanのホームページの翻訳作業や団体紹介のリーフレットの作成に取り組んでいます。文章とリーフレットを作成する上で心がけていることは、初めてCWS Japanのことを知る人にも読みやすい形にすることです。また、同じくインターンの館農さんと一緒に若者向けのイベントを企画しています。

これからどうぞよろしくお願い致します！

(文：インターン 楠 真依)

アフガン地震緊急支援について



過去のニュースレターは[こちら](#)



ご高覧頂き有難うございます。次回のニュースレターは7月末の発行を予定しています。

特定非営利活動法人CWSJapan
〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館25号室

メールアドレス：
public@cwsjapan.jp
電話：
03-6457-6840



[CWSJapan](#)



[@Japan_CWS](#)



[cws_japan](#)